

2025 年度事業報告書

2025 年度の最重要課題は、年来の懸案であった障害者グループホーム事業への参入について結論を出すことであった。そのため、定款を変更して第 5 条(事業)に「障害者福祉事業」を明記し、京丹波町担当者と密接に意思疎通を図りながら、先行事例の見学や創業セミナーへの参加などを通じて情報収集と研究に努めた。事業場所の確保についても、建築士をともなって空き家や候補地を調査し、構想図面を作製するなど、具体的な検討を重ねた。

しかし、現在の資金力や人員体制から慎重に判断すると、多額の投資をして新規事業に乗り出した場合、将来的に既存の事業とともに安定した運営が維持できるかどうか懸念が残り、今年度の結論としては、当面、参入を見送ることとした。ただし、この課題への取り組みを断念してしまうのではなく、今後も内外の状況の変化を注視しつつ再検討する余地を残すこととした。

事業計画に掲げた上記以外の 6 項目については、次の通りであった。

(1)ホームヘルプ活動に介護記録ソフトを導入した。これにより「特定事業所加算Ⅱ」の要件を満たすことになり、職員の処遇改善につながった。電子化によって活動内容の情報共有が促進され、記録の集計が効率化できたが、端末への入力に時間を取られるなどの課題も残った。職員配置については、非常勤職員 1 名を新規採用したほか、1 名の資格取得を支援して、次年度からの増員を確保した。

(2)デイサービスセンターの入浴設備の改修工事を実施した。食材費の値上げに対しては、調理担当職員の工夫が大きく貢献して、利用者への転嫁を回避できた。非常勤職員 1 名を常勤に転換して職員体制を強化した。

(3)ケアマネジャーの資格取得について 2 名を支援したが、取得には至らなかった。

(4)外出支援事業は、非常勤の専属運転者 2 名を得て、事務所職員の兼務状態をある程度解消できた。利用量がやや減少したが、他事業所が「デマンドタクシー」事業を開始したことの影響によるものかどうかは、現時点では定かではない。

(5)自主事業である「くつろぎカフェ」事業は拡充を目指したが、前年度と同じく年間 3 回の開催にとどまった。このうち 1 回は、地域(京丹波町下大久保)のボランティアグループ「つむぎ庵」と共同で開催し、今後の連携や事業内容について新たな可能性を得た。

(6)定款を変更して第4条(非営利活動の種類)に「まちづくりの推進を図る活動」を加え、「地域に根ざしたNPO」として、制度にとらわれない自主的な取り組みを構想しようとしたが、現行事業の執行に追われているうちに年度を終了したのは遺憾であった。

以下、項目別に報告する。

◆会員

年度末時点の会員数は次表のとおりである。正会員61人のうち42人が役員及び職員で、それ以外が19人となっている。賛助会員は3社減って11社となった。

	本年度末	前年度末
正会員	60人	61人
協力会員	12人	11人
賛助会員	11社	14社

◆機関会議

①通常総会

日時：2025年5月24日(土)10時00分～12時00分

場所：京丹波町商工会瑞穂支所

出席：正会員62人中57人出席(本人出席21人、委任状・書面表決36人)

議題 第1号議案 2024年度事業報告承認の件
第2号議案 2024年度活動決算承認の件
第3号議案 2025年度事業計画承認の件
第4号議案 2025年度活動予算承認の件
第5号議案 定款変更承認の件

各議案とも原案通り可決承認を得た。上述のとおり、定款4条と5条に変更を加えた。来賓に畠中源一京丹波町長を招いた。

②理事会

年間3回開催し、それぞれの時点での活動状況や課題を協議した。

第1回 2025年5月10日(土) 通常総会提出議案について

第2回 2025年10月22日(水) 上半期の活動状況と障害者グループホームについて

第3回 2026年3月6日(金) 決算見込と障害者グループホームについて

◆職員

①常勤職員

年度初めに非常勤職員1名を常勤に転換し、年度末時点では事務局長1人、ヘルパー部門3人、ケアマネジャー3人、デイサービス4人の合計11人である。

②非常勤職員

新規採用は、4月にデイサービス(「くつろぎカフェ」兼務)1名、10月にホームヘルパー1人を採用した。6月及び9月にデイサービス職員各1人を採用したが、いず

れも年度内で退職した。9月にデイサービス調理員、12月に運転者1人が退職し、年度末時点では合計24人となった。

◆研修等

①委員会

虐待防止・身体拘束排除委員会及び感染症委員会をそれぞれ2回開催した。また、本年度より処遇改善加算の要件となった生産性向上・業務効率化委員会を4月に設置・開催した。これらの成果はいずれも内部研修につなげた。

②内部研修

職員による研修班を組織し、職員自身の企画・運営により次表の研修を実施した。

時期	テーマ
7月	感染症
8月	虐待防止・身体拘束排除
9月	認知症
10月	事故発生予防、 再発防止・事故発生時の対応・非常時災害時の対応（BCP）
1月	プライバシー保護・接遇
2月	倫理及び法令遵守

③外部研修・会議出席等

今年度参加・出席した主な外部研修・会議については下表の通り。

時期	テーマ	主催
5月	サービス管理責任者基礎研修	京都府
	看護師・介護職リハビリテーションステップアップ研修	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
6月	生産性向上推進セミナー	京都府
	介護の未来展	三笑堂
7月	サービス提供責任者研修	京都府介護福祉士会
	感染症対策オンライン相談会	京都府
	京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	南丹地域包括ケア推進ネット
9月	民生委員とケアマネジャー等との懇談会	京丹波町
10月	京丹波町ウェルネス講演会	京丹波町
	感染症対策オンライン相談会	京都府
	京丹波町地域包括ケア推進会議他	京丹波町
	看護師・介護職リハビリテーションステップアップ研修	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター

11 月	安全運転管理者講習	京都府警察
	奥田知志講演会	NPO 法人抱樸
	疥癬研修会	南丹保健所
	看護師・介護職リハビリテーションステップアップ研修	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
12 月	看護師・介護職リハビリテーションステップアップ研修	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
1 月	京都府ホームヘルパー連絡協議会	京都福祉サービス協会
2 月	看護師・介護職リハビリテーションステップアップ研修	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
	福祉有償運送運営協議会	京丹波町
3 月	京丹波町地域包括ケア推進会議他	京丹波町
	地域 SDG s 活動推進協議会	京丹波町
	京丹波町ヘルパーの集い	京丹波町社協

◆広報活動

広報誌『クローバーだより』を毎月約 400 部発行し、会員、利用者、関係機関等に配布した。ホームページ及びフェイスブックによる発信も行った。

◆「助け合い」事業

①ヘルパー派遣

利用者は年間 16 人であった。利用人数、回数、時間数共に前年より増加した。介護保険の利用限度額超過分の振替が大半であったが、その外にも買物付添い、病院内介助、薬の受取り代行、除草作業、入院による長期不在家屋の環境整備など制度対象外のニーズに対応した。

京丹波町高齢者日常生活支援事業により、住民税非課税者 10 人に対し利用料を減免した。

採算を重視しない事業ではあるが、68 万 6 千円の収益に対し直接人件費(給与+手当)だけで 105 万円の支出となり、マイナス幅が拡大している。

〔利用実績〕※利用者数「合計」は、各月利用者実数を年間合計したもの、以下各表とも同様

	月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	5.4	7	4	65	54	120.4%
回 数 (回)	26.0	47	12	312	174	179.3%
時 間 数	27.0	36.00	4.00	324.00	143.00	226.6%

②くつろぎカフェ

開催回数を増やす計画であったが、前年度と同様年間 3 回の開催にとどまった。7 月及び 11 月はデイサービスセンターで開催し、3 月は「つむぎ庵」において同グループと共同開催した。参加者数は延べ 17 人で、前年度より減少した。

[利用実績]

	1 回 平 均	最 多 回	最 少 回	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	5.7	6	5	17	26	65.0%

◆外出支援事業（福祉有償運送）

利用者数、利用回数共に前年度より十数パーセント減少した。減少の要因は、利用の多かった利用者が入所や死亡したこと、家族による対応が増えたことなどが考えられるが、4月より本格運行が始まったデマンドタクシーの影響はまだ限定的と思われる。年度末での利用登録者は155人、年間の新規登録者は15人であった。

利用の大部分は通院送迎であり、京丹波町病院423回、明治国際医療大学付属病院173回、園部病院89回、中部総合医療センター86回となった。

委託事業でありながら、307万円の収益に対して直接人件費だけでも358万円の支出となって、大幅に採算ベースを割り込んでいる。

京都府の補助金を得て、車いす対応軽自動車1台を更新した。

[利用実績]

	月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	54.1	63	46	649	748	86.8%
回 数 (回)	193.8	236	173	2,326	2,699	86.2%
走行距離(km)	1,806.7	2,591.0	1,406.6	2,1679.8	2,6101.7	83.1%

◆障害者居宅介護・重度訪問介護事業

居宅介護の利用者は年度末で10人、年度内に新規利用者はなかった。利用回数と時間は前年度より約20%減少した。重度訪問介護は、今年度も利用がなかった。

[利用実績]

	月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	9.8	10	9	118	143	82.5%
回 数 (回)	63.3	73	54	760	961	79.1%
時 間 数	72.13	81.75	62.75	865.50	1,044.25	82.9%

◆介護保険事業

①居宅介護支援（ケアマネジャー）

新規利用が19人、入所・死亡等による利用停止が23人あり、年度末の利用者は70人であった。適切な支援体制を維持するため、新規利用を断るケースもあった。

職員1人は京丹波町地域包括ケア推進委員会に委員として参加した。

[利用実績]

		月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
件数	介護	61.4	66	53	737	783	94.1%
	予防	4.3	5	4	52	38	136.8%

②訪問介護（ホームヘルパー）

新規利用者は18人で、入院、死亡等による利用停止は10人、年度末での利用者数は39人であった。前年度に比べると利用回数が約6%、利用時間数が約13%減少したが、収益は処遇改善加算の取得により124万円余り増加した。

年度当初より実施した介護記録の電子化は、事前研修の成果もあってスムーズな移行ができ、事務作業の効率化が図れた。毎月1回のヘルパー部門会議は、参加率も高く、情報共有と研修の機会として有益な会議となった。

2月に京都府の「運営指導」を受け、おおむね適正に運営していることが確認された。
〔利用実績〕

		月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者 数(人)	介護	33.4	36	31	401	435	92.2%
	総合	2.5	4	2	30	29	103.4%
回 数 (回)	介護	404.9	461	367	4,859	5,197	93.5%
	総合	10.0	18	6	120	105	114.3%
時間数 (時間)	介護	344.06	385.17	319.75	4,128.75	4,807.25	85.9%
	総合	10.00	18.00	6.00	120.00	107.50	111.6%

③通所介護（デイサービス）

新規利用者が12人、施設入所や死亡等による停止が8人、年度末の登録者数は41人であった。利用者の平均介護度は2.1、1日平均12.8人の利用であった。他事業所が閉鎖したのに伴う利用者3人の受け入れなどにより利用が増加し、新規契約を断らざるを得ないことがあった。

京丹波町社協、京丹波町移動図書館、町内外ボランティアの協力を得たほか、地域住民からウエス(ふき取り布)や野菜、備品など多数の寄付を受けた。夏休みと春休みに小学生のボランティアを計5人受け入れ、利用者との交流と実地体験の場とした。

地域密着型通所介護運営推進会議を「デイサービスほほえみ」と共同で9月に開催した。避難訓練は年2回行った。

〔利用実績〕

		月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数(回)		25.6	27	23	307	307	100.0%
利用者数 (人)	介護	38.4	42	36	461	480	96.0%
	総合	2.0	3	1	24	22	109.1%
延利用者 数(人)	介護	315.8	343	300	3,790	3,739	101.4%
	総合	11.3	18	4	136	69	197.1%
1回平均(人)		12.8	13.7	11.9	12.8	12.4	103.1%

以上